



## 「戦後日本の社会科学の戦争責任問題」

**問題提起者：**安川 寿之輔さん（近代日本思想史研究家）

**日時：**2017年11月26日（日）13:30～16:30

**会場：**文京シビックホール

**参加者：**16名

**問題提起要旨：**今、日本は、安全保障法や特定秘密保護法などの立法化を通して、再び戦争国家への道に踏み出そうとしています。こうした状況を引き起こす背景には、日本軍性奴隷問題に見られるとおり、かつての侵略戦争と植民地支配の過去への謝罪と反省を怠り、「戦争責任」を放置し続けてきたことが挙げられます。このことを考えるためにも、日本人が戦争責任にどのように向き合ったのかという問題について、帝国主義や植民地支配の問題を自らの思想体系から捨象してしまった政治学者・丸山眞男の場合と、最晩年に至って自らの犯した誤りの認識・告白を通して戦争責任論を探究した教育学者・五十嵐顕の場合とを対比して検証したいと思います。そして、日本国憲法の前文冒頭の理念に立ちかえり、日本社会が二度と再び戦争への道を歩むことを許さないという私たちの「戦後責任=未来責任」の問題を考えます。